

恐れることはない、ただ信じなさい

マルコによる福音書5章35-43節

森島 牧人 牧師

前回は、主イエスが12年の間出血に苦しんだ若い女を癒されるお話でした。この時、主イエスが女に求められたのは、人格的な出会い、「主イエスの呼びかけに応答する」という出会いでした。この「主イエスへの応答」は今、私たちにも求められています。私たちに対する主の呼びかけに私たちが応答する時、主イエスと私たちの出会いはスタートするからです。出血に苦しんでいた女も主イエスの前にひれ伏し、応答することによって主と人格的な出会いをし、病だけではなくすべての救いに与ったのでした。

さて、今日与えられた聖書はその続きで、「イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家の人々が来て言った。『お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう』と。イエスはその話をそばで聞いて、『恐れることはない。ただ信じなさい』と会堂長に言われた」(マルコ5:35-36)とあります。一刻も早く娘のところへと気持ちの急ぐヤイロは、出血の女に対応される主イエスにいらいらしていたと思われます。そんなところへ届いた「娘が死んだ」との知らせに、ヤイロは呆然と立ち尽くします。そんな中で、主イエスがヤイロに言われたのが「恐れることはない。ただ信じなさい。」でした。

この「恐れるな」という御言葉は聖書の中に何度も出て来ますが、いずれも特別な場面での御言葉で、例えばルカ2:10で、怯える羊飼いに主イエスの誕生を知らせる天使の「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。・・・」や、創世記15:1のアブラハムとの契約時の主の言葉、「恐れるな。アブラムよ。わたしはあなたの盾である。・・・」など、神が民に御自分を現される時に使われています。空白の心が恐れや不安で埋め尽くされそうになっている者に対して、神は「恐れるな」と言われるのです。この場面でも、その場に倒れ込むばかりのヤイロに対して、主イエスは「恐れることはない。ただ信じなさい。」といわれたのでした。それは、「神にとって遅すぎることはない。ただ信じなさい。常識的な考えを捨て、わたしを見なさい。」ということだったのでした。

聖書は「一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、家の中に入り、人々に言われた。『なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。』」と続きます。聖書記者は、人々がこの主イエスの言葉を聞き、あざ笑ったと書いています。「罪が支払う報酬は死です。」とロマ書6:23にもあるように、「死」と「眠り」が全く別のものであることを人々は知っていたのでした。「死が眠りとなる」・・・人々にはあり得ないと思われたその出来事は、「死」の前に主イエスが立たれた時、すなわち主イエスの癒しの御業である十字架上の死と復活によって、私たちの上にも信仰的事実として完成したのでした。ロマ書8:11に「あなたがたの死ぬはずの体をも生かして・・・」とパウロも言っています。

ヤイロの娘が起き上がって歩き出したのを見て、人々は驚きのあまり我を忘れたと聖書記者は続けています。この2つの物語を通して私たちが知らされること、それは「恐れることはない。ただ信じなさい。」という御言葉の真の意味です。驚くべき主イエス・キリストの御業によって救いに与った私たちは、恐れることなく、ただ信じて「死が眠りである」中を、主イエスと共に生きて行くのです。